

■児童・生徒の学力の状況

- 意欲的に取り組むが、話を正しく聞き取り理解することや学習に向かう姿勢に課題が見られる。
- 学力調査等の調査の結果から、基礎的・基本的な内容について十分に定着していない児童が目立つ。学習での個別支援が必要な児童が見られる。
- 学習後の時間経過とともに学んだ内容があいまいになる傾向が強く、繰り返しの指導が必要である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 授業ルールやマナーについて共通実践し、学習の定着を図れるように全校で指導していく必要がある。
- 「読み解く力」を育成し、児童の主體的な学習が実践できるよう以下のような活動の工夫が必要である。
  - ・話の目的や内容を考え、最後まで正確に聞いたり分かりやすく話したりする活動。
  - ・聞き取ったことや話し合ったことをもとに、自分の考えをもち表現したりまとめたりしていく活動。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「どの子ども伸ばす弥生の教育 ～やってみたくことにチャレンジできる弥生小～」をスローガンに掲げ、「がんばる自分、なにかでひとつ」を児童に示し、日常の授業及び諸活動の充実を図る。
- わかった、できた、楽しいが実感できる学校（読み解く力（確かな学力）の育成）
  - 「板橋区授業スタンダード」の浸透と「授業改善推進プラン」の活用を図るとともに、個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力等を高める。読み解く力の育成を通して、主体的に学びに向かう力を養う。
  - 一人一人の個性や能力を生かす指導の徹底を図る。（習熟度別授業・体験的活動・朝読書・俳句デー）
  - 学習の基礎・基本の定着を図る。（漢字、計算の定着、繰り返しの学習、補修教室（弥生タイム）、家庭学習）
  - 学習を成立させる基礎基本の定着を図る。（話の聴き方、姿勢、学習のルール、自分の考えを言う）
  - 各教科の中で一人一台端末を活用して、情報活用能力の育成を図る。「プログラミング的思考」を育む。
  - 情報モラル教育を教育活動全体として計画的に取り組む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
「課題の設定、情報の収集・整理分析・考察、課題解決、まとめ・表現、新たな課題設定」等の学習の流れを意識し、定着できるようにする。	めあてや学習の流れを正しく把握する。 （INPUT）→自分の考えをもつ（THINK） →考えをまとめ発表する（OUTPUT） 授業の流れを明確にし、子どもが主体的に学習に関われるようにする。	地域の人材や施設との交流活動を通して、地域とともにある学校という愛校心・郷土への愛情の心を育てる。芝生の校庭を維持するための「グリーンサポーター」と連携し、学校愛、郷土愛の育成を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○課題に対して自分の考えをもつ力を育むために学びのエリアを核とし、板橋区授業スタンダードの定着を図っていく。 ○ESD及びSDGsの基礎を養うために、環境学習を通し芝生校庭の維持管理に全校で取り組む活動を取り入れる。	○総合的な学習の時間を中心に9年間のカリキュラムに沿った指導を行う。 ○各教科、行事体験等で身に付けた力を生かし伸ばしていけるような「総合的な学習の時間」の設定を学校全体で取り組んでいく。 ○キャリア教育の推進、郷土愛を育成するため、地域に目を向けた学習課題を設定する。	○一人一台端末を活用し、話し合いのツールとして活用したり、作品を発表し合ったりする活動に生かす。 ○学習の習熟や、個別の記録を生かした振り返りなどの場面における一人一台端末の活用を図る。 ○情報モラル教育を教育活動全体として計画的に取り組む。 ○学びのエリアで「ChromeBook活用推進プラン」を共有し活用の日常化を目指す。